

令和7年9月10日

総務大臣

村上 誠一郎 様

公立病院の施設整備に関する
要望書

千葉県 柏市長 太田 和美

【要望内容】

公立病院は、救急医療などの政策的医療や、小児医療などの不採算医療の提供のほか、災害医療の提供、新興感染症への対応など、地域医療の中核的な役割を担っています。

これらの役割を将来に渡って担っていくには、病院の機能を維持・拡充していく必要がありますが、近年の建築資材高騰や労務費上昇などにより建設コストが高騰していること、物価高、人件費上昇により公立病院の経営が悪化していることから、そのための施設の増築や建替えが困難な状況となり、喫緊の課題となっています。

このことから、下記の事項を強く要望いたします。

記

○ 病院建設に対する支援

公立病院の建設改良にかかる病院事業債については、その元利償還金の25%分が普通交付税措置されていますが、交付税措置の対象となる建築単価の上限額は、現状 59 万円/㎡で設定されています。

建築単価の上限額は、公的病院等の建築単価の実績を参考に、毎年引き上げがされていますが、建設コストの高騰に追いついておらず、実勢と乖離している状況です。

なお、公立病院の施設整備については、施設整備費が計画額を大幅に超過し契約締結に至らない事例も増えており、事業計画の変更や休止を余儀なくされています。

このまま整備事業が進められなければ、持続可能な地域医療体制が確保できない危機的な状況となっています。

このことから、普通交付税措置される病院事業債の建築単価の上限額について、参考としている建築単価の実績に加え、契約締結に至らない事例も踏まえた上で、実勢価格に見合う大幅な引上げの実施を強く要望いたします。

【背景等】

○ 柏市立柏病院の建替え

柏市立柏病院は、国(旧厚生省)から旧国立病院の譲渡を受け、平成5年7月に診療科目4科・病床数100床で開院しました。その後、医療需要の変化などに対応し、現在は診療科目17科・200床の急性期医療を担う東葛北部保健医療圏の二次医療機関として、また、小児医療や感染症対応など、不採算医療を担う公立病院として重要な役割を担っています。運営については、開院以来、公設民営方式を採用しており、現在は、指定管理者の公益財団法人柏市医療公社が管理運営を行っています。

病院の建物は、旧国立病院時代のものを使用しており、築45年以上が経過しているため、建物や設備の老朽化が著しい状況です。また、診療科目や診療機能の拡大に対して、限られたスペースで対応しているため、施設全体の狭あい化が進み、新たな機能拡充が極めて困難であることや患者の利用環境の著しい低下が問題となっています。

このような問題を解決するために、令和3年11月に病院の現地建替えを決定し、新病院建設に向けた計画を進めてきました。しかし、建築資材高騰や労務費上昇等に起因する建設コストの高騰により、令和5年4月の基本計画策定時点で約132億円を見込んでいた工事費が、令和6年7月の基本設計完了時では約225億円となり、さらに、令和7年1月の施工予定者選定時には約293億円にまで増加しました。

経営面においては、新たな診療報酬加算の研究や救急患者の受入れ強化、地域のクリニックとの連携強化等、経営努力は常に行っていますが、昨今の物価高騰及び人件費上昇が経営を圧迫している状況です。

このような状況の中、今後も地域に広く貢献する公立病院としての役割を十分に果たすため、老朽化した施設を早急に建て替え、よりよい医療環境を提供したいと考えておりますが、昨今の新病院建設を取り巻く環境を鑑みると、このまま建替計画を進めることが困難な状況です。